

## ■会長就任挨拶

北海道大学名誉教授　日本山岳会会長　佐々保雄氏

大学の名誉教授にすぎない、あるいは単なる一介の地質学者にすぎない私が、なぜこのような所に立つようになったかと言いますと、一昨年末のある夕方、私の属しております日本山岳会のパンケットの席上で、隣りに座っておられました前会長の西堀博士が、ここにあるパンフレットを渡されまして、「君こういうのがあるけど、君は青函トンネルに長くお手伝いしていたから、これも一つやってみないか」というお言葉でした。

このパンフレットの内容は、韓国の出身の牧師であられる文鮮明先生が、一昨年の11月にソウルで行われた、科学の統一に関する国際会議の席上で講演された話の要旨であります。主題は『インターナショナルハイウェイ』で、副題は『世界の未来の平和のために』とついております。これは、世界をハイウェイでもって網羅し、各国の人々が自由に出入りできるようなフリーゾーンを造り、お互いの国々の物と心とを自由に交流させれば、そこに新しい平和が生まれるだろうという構想の下に出されたプロポーザルです。その中には、最も大切な、また、困難な部分として最初に手をつけるべき問題として、日本と韓国との間のハイウェイ建設が提案されています。しかし海の上のことですから、ハイウェイそのものはトンネルにならざるを得ませんが、そのような構想も描かれております。非常に短いのですが、内容の充実したパンフレットがありました。

私は、昭和21年に青函トンネルが始まった最初の計画の立案から調査、さらに実際に工事が始まってからは、毎月のように坑道に入つてお手伝いをしてきました。そういう面から、この新しい計画にもお手伝いできるのではないかと、また、精神的な背景を持ったこの大きな構想には、非常な意義があると共感して、このプロジェクトに加わることになりました。

この国際ハイウェイプロジェクトの研究グループは、世界平和教授アカデミーの中の一部会として、昨年の春以来約1年間にわたり研究会を重ねてまいりました。しかし、この世紀の工事とも言われる大きな計画は、国際間の問題もあり、単なる同好の士だけではとても実際に実現しにくく、日本の衆知を集め、多くの方々の力と知恵を出し合つて敢行しなければ達成されないということで、改めて平和教授アカデミーから独立し、このような研究会を作ることになりました。それでこのたび、多くの方々にご賛同を得たいと思いましてお便りを出しましたところ、多くの方々が発起人、会員として加わってくださり、呼びかけ人の一人としまして、非常にうれしく存じております。

青函トンネルの問題ではご存じのように、非常な経費と日月をかけて出来上がった。ところが新幹線が通らない、ということで、マスコミは「単に北海道と本州の間に風穴があいただけだ」といった痛烈な言葉をしばしば繰り返しております。その上に改めて韓国と日本の間にトンネルを通すとなれば、今まで日本は島国であったために、これだけのいわば純粹さを保っていたのに、そのようなトンネルを通して何になるかとか、経済的にメリットがあるのかといった疑問も、当然出てまいります。また、これは決して軍事的目的に使われるはずはありませんが、ある方は青函トンネルも軍用と見たり、ましてや韓国と日本の間にトンネルを通すとなると、軍事用あるいは非常時用と、そういう疑問が生じないとも限りません。しかし現在、意識上の摩擦は多少あるにしましても、韓国と日本の間になんらそうした経済的な摩擦はなく、また軍事用に使われるようなことは決してありませんし、またあってはならないと思っております。

韓国と日本とは、よく日帝36年と言われる様な非常に不幸な歴史を持っております。したがつて韓國の方たちの、ことに戦後の教育を受けた若い韓國の方たちの日本人に対する不信は、私たちが到底知り得ないものがあります。また、日本人も、理由のない侮蔑觀を韓国に、多くの方は抱いているのではないかと思います。そういう国の中に、このようなトンネルを通すことは、どのような意義があるのか、それを私たちは深く考えなければなりません。現在は飛行機もあり、大きな大量物質は船でも運べますが、やはりそれは庶民のものではなく、また飛行機は点と点、飛行場がないと使えません。しかし道路が続くことにより庶民の行き来が出来る、その精神的なメリットというものは経済を上回って大きなものではないかと考えております。

また、日本の戦後、あの焼け野原から今日に至ったこの日本人の英知、技術、それから経済力を、単にわが国だけのためなく世界のために生かす、奉仕する時がもうすでに来ていると思います。世界に奉仕することにより、他の国の人々に親しまれ、敬愛され、尊敬される国民になる。そのほんの手掛りにすぎませんが、少なくともそうした平和の道を築く第一歩として、この日韓トンネルが存在し、そこに私たちは価値を求めてこの様な研究会を進めようとするものです。恐らくこれの問題に対して多くの反対もあるでしょうけれども、私は、この理念、感情を抱いて、堅い決心と勇気を持ってこの会を推し進めてまいりたいと決心しております。

